

こどもら筑波山ツアーを開催！

～みんなで力を合わせて全員が山頂へ～

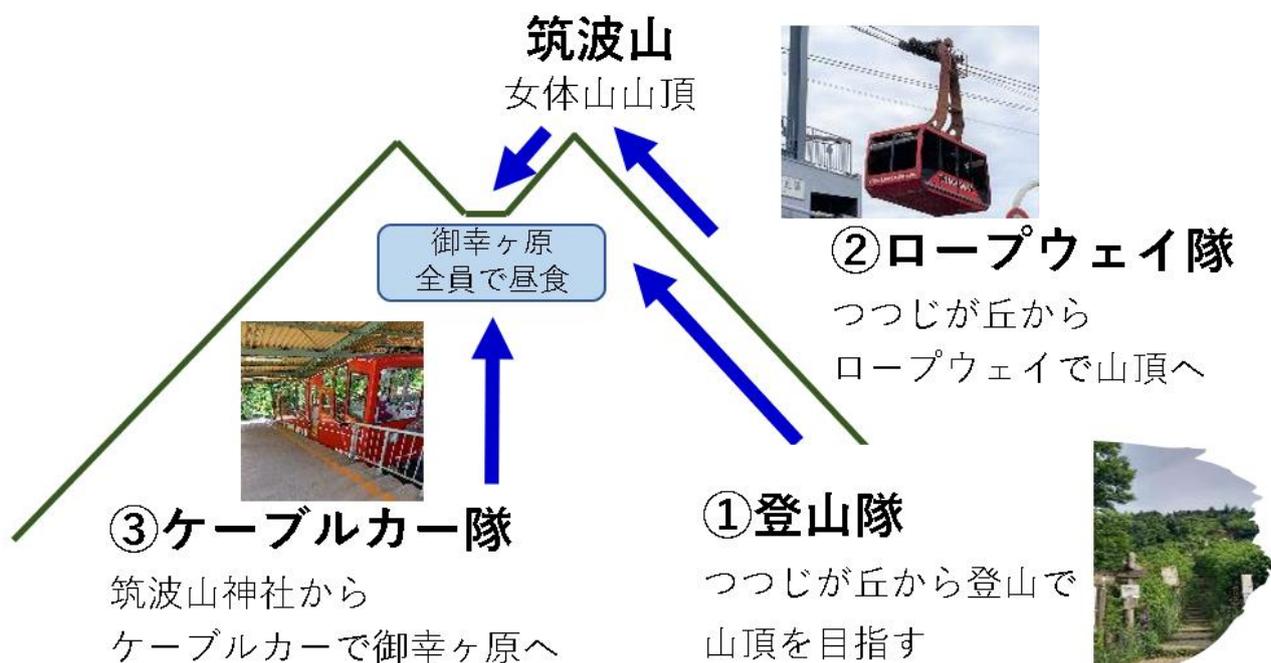


茨城県にある百名山「筑波山」にチャレンジする「こどもら筑波山ツアー」を初開催しました。第1回は10月16日、第2回は12月4日に開催し、ツアーには子ども43名、親御さんとボランティアをあわせて合計160名が参加し、全員で目的地の筑波山山頂・展望台を目指しました。

体調・体力にあわせて登山・ロープウェイなどで目的地へ！

今回の筑波山ツアーには病気や障がいのあるお子さんや未就学のお子さんも多く参加しました。そのため、それぞれの体調、体力に合わせて登山隊、ロープウェイ隊、ケーブルカー隊の3グループに分かれて筑波山にチャレンジしました。登山隊にはひとり親世帯の親子や、病気・障がいのある子どものきょうだいや家族が主に参加し、ロープウェイ隊とケーブルカー隊は病気や障がいのある子ども、未就学の子どもがいる親子などが参加しました。

子どもの怪我や体調悪化に備えて登山隊とケーブルカー隊には医師が同行。また、安全に登山を行えるよう、登山道を通る登山隊とロープウェイ隊には専門の山岳ガイドが同行しました。



①登山隊はボランティアのサポートで全員が山頂へ！

登山隊には親子33名(子ども18名)、ボランティア42名が参加し、Mt フジトレイルクラブの山岳ガイドを先頭に9時15分につつじが丘の登山口を出発しました。

登山には5歳のお子さんから70代のボランティアまで様々な年代の方が参加。後半の岩場の難所では、ボランティアが子ども達の手を引いたり、体を持ち上げるなどしてサポート。全員が大きなけがなく、無事に登頂しました。





②ロープウェイ隊では足が不自由なお子さんも自分の足で山頂へ！

ロープウェイ隊にはお子さん 15 名を含む 39 名が参加し、登山隊が出発した約 1 時間後につつじが丘駐車場を出発しました。ロープウェイで山頂直下の女体山駅まで行き、そこからは徒歩で山頂へ。女体山駅から山頂までは標高差約 30m の急坂ですが、未就学の子も達も一生懸命登り、また、バギーの子ども達はボランティアがバギーを持ち上げるなどして一緒に山頂を目指しました。

ロープウェイ隊にも Mt フジトレイルクラブの山岳ガイドが 1 名同行。山頂付近にはバギーが通れない場所がありましたが、ガイドの補助でバギーの子も自分の足で山頂の岩場まで行きました！12 月の第 2 回ツアーは快晴でロープウェイからスカイツリーや富士山が見えて、子ども達は大喜びでした♪



③ケーブルカー隊は高原と展望台で大自然を満喫！

ケーブルカー隊は子ども 10 名を含む 35 名が参加しました。お子さんはバギーのお子さんも多くいたため、沢山のボランティアが同行して筑波山神社からケーブルカー乗り場までの急坂、ケーブルカー乗り場や展望台の階段の上り下りをサポートしました。ケーブルカーで到着した後はみんなで関東平野を見渡せる展望台で景色を楽しんだり、高原の澄んだ空気を満喫しました。



御幸ヶ原で3グループが合流！

それぞれ別々に出発した登山隊、ロープウェイ隊、ケーブルカー隊の3グループは御幸ヶ原で合流して、みんなで一緒にランチタイム♪御幸ヶ原は標高が800m以上あり少し肌寒いくらいでしたが、登山や乗り物の話をしながら楽しい一時を過ごしました。

下山は登山道を通ると怪我のリスクもあるため、全員でロープウェイとケーブルカーで降りて解散となりました。



参加した皆さんの感想

Aさん（ひとり親世帯の方。母と5歳の子ども2人で登山に参加）

ツアーから帰った日の夜、子どもが「明日も山登りしたいな〜♪」と言って眠りにつきました。一時は転倒で心が折れそうになっておりましたが…ボランティアの皆さんの激励と手厚いサポートをいただいたことで、なんとか登り切ることができました。楽しくて楽しくて仕方なかったうえに、キラキラの達成感を得られたのだと思います。私だけでは絶対にできないことでした。本当に素晴らしい体験をありがとうございました。

Bさん（ご両親・姉妹2人の4人が登山、バギーのお子さんはロープウェイに参加）

行きはロープウェイ、帰りはケーブルカーを利用して、家族だけで連れて行くのはなかなか厳しい場所だと感じました。力持ちのボランティアさんたちがいらっしゃらなかったら乗れなかったと思います。バギーで移動する子をロープウェイ乗り場からケーブルカー乗り場まで連れて行って欲しいと、我儘を行ってしまい申し訳なかったですが、みんなとの集合写真に写ることができて嬉しかったです！！私もパパも揃って登山をするということは家族だけではできないことでした。貴重な機会を与えて頂きありがとうございました。

ひとり親世帯の親子がツアーに参加&子ども達に運動靴をプレゼント

こどもらツアーはこれまでは病気や障がいのあるお子さんと家族を対象に行ってきましたが、今回の筑波山ツアーには子ども食堂に来ているひとり親世帯のお子さんも参加をしました。

厚生労働省が2015年に「日本の子どもの6人に1人が貧困状態にある」と発表して以来「子どもの貧困」という言葉が広く知られるようになりましたが、松戸市の調査では、特にひとり親世帯で習い事やレジャー・スポーツ等の経験が不足している事が課題として挙がっていました。※

そこで、今回のこどもら筑波山ツアーでは参加費は無料でひとり親世帯の親子も申し込み対象として、子どもには一人一人に靴を無料でプレゼントしました。

※第2期松戸市子どもの未来応援プラン（松戸市子どもの貧困対策計画）より



ナイキの助成事業として開催(ナイキ・コミュニティ・インパクト・ファンド)

ナイキ・コミュニティ・インパクト・ファンド(NCIF)は、社会的な困難や生きづらさを有する当事者を主体とし、スポーツや身体を使うアクティビティを通じ、人と人とのつながりを創出したり、今あるつながりへの安心や信頼を深めたりするプロジェクトが対象となっています。NCIFは日本では今年初開催で8団体が助成対象となり、こどもら筑波山ツアーもそのうちの1つとして開催させて頂きました。

インクルーシブなイベントとして開催

インクルーシブとは、バリアフリーをもう1歩進めた考えで「障がいでなく、性別、年齢、国籍や宗教、文化などの多様性を認め合い、ともに暮らしていこう」といった意味合いがあります。人間の多様性を尊重する共生社会の実現に向けて、学校現場では障がいの有無にかかわらず一緒に学ぶインクルーシブ教育が取り入れられています。

今回の筑波山ツアーはボランティアが多く参加する事で様々な立場にある子どもが参加しやすい工夫をしました。医師が同行する事で病気や障がいがあるお子さんが参加しやすい体制を整え、また、ひとり親世帯の子どもなど普段なかなかレジャーやスポーツに取り組む機会が持てない子ども達をボランティアがサポートしました。

地域の企業・団体がボランティアとした多く参加し、参加して病気や障がい、経済的な困難を抱える子ども達や家族と交流し、子どもや家族が置かれている現状についての理解を深める機会となりました。

こどもら筑波山ツアーでのSDGsの取り組み

こどもら筑波山ツアーを通じてSDGsの以下の項目達成に取り組みました。



SDGs1-2：それぞれの国の基準でいろいろな面で「貧しい」とされる男性、女性、子どもの割合を少なくとも半分減らす。

SDGs10-2：年齢、性別、障がい、人種、民族、生まれ、宗教、経済状態などに関わらず、すべての人が能力を高め、社会的、経済的、政治的に取り残されないようにすすめる。

SDGs11-2：女性や子ども、障がいのある人、お年寄りなど、弱い立場にある人々が必要としていることを特によく考え・・・持続可能な交通手段を使えるようにする。

ツアー開催にあたりご協力頂いた皆様

山岳ガイド)

(一社)マウントフジトレイルクラブ

ボランティアでの協力)

(株)SMBC 日興証券様

(株)常陽銀行様

(株)高島屋柏店様

(株)ナイキジャパン様

(株)三菱東京 UFJ 銀行様

(株)友愛メディカル様

松戸市内のロータリークラブ様

この報告書に関するお問合せ

一般社団法人 子供プラス未来

メール：info@kodomira.or.jp 電話：080-8715-8087